

1. 学校教育目標

- | |
|--|
| ①常に成長を目指し努力し続けられる人物（自立）
②世界で活躍できる能力を有した人物（挑戦）
③謙虚に自分を見つめ喜んで奉仕できる慈愛に満ちた人物（奉仕） |
|--|

2. 本年度に重点的に取り組む目標・計画

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自らを律し、他と協調し、他を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を持った生徒を育てる。 ・6年間を大人になるための準備期間として、責任ある市民として自己決定・自己判断ができるよう論理的に突き詰めて思考する力を育てる。 ・主体性を持って行動できる生徒を育て、学習面・生活面でも他律から自律へ切り替える。 |
|--|

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
学力形成 学習指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶとは覚えることではなく考えること」をテーマに、教科指導形式を「講義形式」から「対話形式」へと変革に取り組んだ。 ・グローバル社会への対応の一つとして、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの強化のため全学年でネイティブの授業を実施した。 ・PC やタブレット端末を用いて、教員・生徒双方向での教材・課題の配信・提出、各生徒の進捗状況管理、グループでの意見交換など様々な ICT を利用した教育を実施した。
人間形成 生活指導 各学年の取組 自治活動 学外活動	グローバル社会で必要とされるスキルを育むことを目的として、以下の取組を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取組 中学1年 国際理解教育、中学2年 ボランティア、キャリアプログラム、中学3年 研究論文、高校1年 『進路から進学へ』、高校2年 『学校のリーダー』、と精神的な発達段階に合わせて活動した。 ・生徒の自治活動 生徒会・委員会・クラブ・体育祭・学園祭・など生徒が主体となって運営した。 ・学外活動（他流試合） 教育の柱である学外交流活動につきましてコロナ禍においても100を超える活動に生徒たちが挑戦した。Coursera の提供する

	<p>イエール大学の Web 授業と Edx の提供するハーバード大学の Web 授業の受講・修了や金融広報中央委員会主催の「おかねの作文コンクール」にて特選である金融担当大臣賞を受賞するなど様々な分野で活躍した。</p>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を定期的実施し（オンライン開催も含めて）、生徒の状況をより良く知ってもらい、学校の方針についての理解も深めてもらった。 ・学年通信を月 1 回程度発行し、連絡事項の徹底、生徒自らの言葉で語る行事報告など学校と家庭の結びつきを強めた。 ・ホームページにて、一般の方々にも学校のことを理解してもらえよう学習面・生活面について学校の紹介を行い、常に最新の情報をトピックスとして発信している。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校管理システムにより生徒の登下校の状況を把握し生徒の安全を図った。 ・新型コロナウイルス感染防止のため、例年 2 回実施している避難訓練は中止とした。 ・年 3 回の施設点検実施により施設の保守を行い、安全管理を行うとともに快適な環境整備を実施した。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に新教務システム及び HR 教室新プロジェクターの勉強会を実施した。 ・新任教員 6 名に対し校長・管理職・校務主任・学年主任・担任を講師として年間にわたり新任教員研修を実施した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の入学式については、感染状況を踏まえ L I V E 配信としたが、教育効果を考慮し、体育祭、彩羽祭（文化祭）については日程を変更し来場者を制限し開催した。一方、感染リスクの高い修学旅行を含めた宿泊行事、合唱コンクールは中止とし代替プログラムを実施した。国際交流については、3月にオンラインにてハーバード模擬国連に参加したが、海外研修・留学プログラムについては全て中止とした。

4. 総合的な評価結果

ICT 化の推進に伴い、一人一台の端末保有を進めており大きな混乱もなく 4 月 13 日よりオンライン授業を開始し 5 月末まで実施した。5 月下旬にはオンラインでの定着度確認テストを実施し、学年別分散登校を経て 6 月 29 日より通常登校を再開した。7 月にはオンライン授業期間の学習の定着を図る「フォローアップ期間」を設定するなど様々な対策を講じた結果、最終的に進学実績が向上することとなった。また、人間形成の面でもコロナ禍における学園祭等のイベントや部活動の実施方法などを生徒自身に考えさせることにより、生徒の主体的な成長につながった。